

- 富山市 -

路面電車南北接続事業について

1. はじめに

富山市では、本格的な人口減少社会の到来や急速な少子高齢化の進行、環境問題の深刻化などを見据え、持続可能な都市構造への転換を図るため、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に様々な都市機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進している。

その中でも、公共交通活性化の取り組みとして、平成18年4月に全国初の本格的LRTとなる富山ライトレールが開業し、平成21年12月には市内電車環状線の開業、さらに、平成27年3月には北陸新幹線開業にあわせて市内電車の富山駅高架下への乗り入れを開始するなど、様々な施策を推進してきた。

2. 路面電車南北接続事業の概要

路面電車南北接続事業は、富山駅南側を運行する富山軌道線（市内電車）と北側を運行する富山港線を富山駅の高架下に設置する停留場で接続するものであり、第1期事業として、南側の市内電車を新幹線高架下まで延伸（約160m）した。その後、在来線の高架化に伴い、北側の富山港線を在来線高架下まで延伸（約90m）する第2期事業を進め、令和2年3月21日に路面電車の南北接続が完成し、富山駅を中心とした全長約15kmのLRTネットワークが形成された。

南北接続事業では、市が軌道を整備し、民間事業

者が運行を行う「上下分離方式」を採用しており、民間事業者と行政が連携を図ることで、長期的に安定した運営が可能となる。

また、南北接続を契機に、富山港線を運行していた富山ライトレール（株）は、市内電車を運行する富山地方鉄道（株）と合併し、南北接続後は全線の運行を富山地方鉄道（株）が担うこととなり、利便性の高い運行や低廉な均一運賃が実現した。南北直通運行が開始されたことで、乗り換えなしで富山駅の南北を移動できるようになり、通勤・通学利用者はもちろん、買い物客や観光客などの利便性が大幅に高まった。



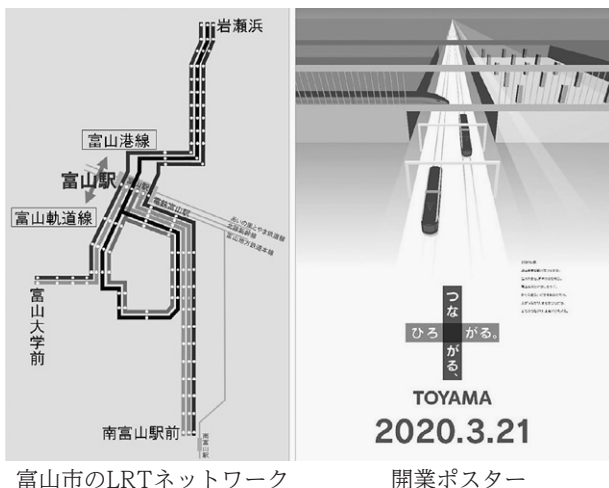
南北直通運行する路面電車（富山駅）

3. おわりに

本市のコンパクトなまちづくりにおける大きな到達点である南北接続事業の完成により、新幹線や在来線から路面電車へのスムーズな乗り換えが可能になるなど、富山駅における交通結節機能が一段と強化され、公共交通全体の利便性が向上した。

さらに、これまで鉄道で分断されていた富山駅南北の市街地の一体化が図られるとともに、利便性の高いLRTネットワークが形成されたことで、中心市街地へのアクセスや回遊性が飛躍的に向上し、中心市街地の賑わいの創出や商業の活性化、高齢者の外出機会の増加など、市民生活や経済活動においても大きな変化が生まれることが期待されている。これらの変化を的確に把握し、本市の新たなまちづくりに活かしていきたいと考えている。

富山市 活力都市創造部 路面電車推進課 中野 昭仁



富山市のLRTネットワーク

開業ポスター